

Next Challenge

次代をつくるチカラ



相互理解を増進し、 友好の思いを深める

程 永華 大使

CCTV大富の日本語放送開始に当たり、駐日中国大使館を代表して謹んで心からお祝い申し上げます。

テレビは大衆メディアとして、現代生活に欠かせないものとなっています。人々はテレビを通じ最新情報を得て、世の中の状況を知り、世界を体験し、見識を広げています。

中央テレビ局(CCTV)は中国で最も影響力のある、視聴者が最も多い、カバー範囲が最も広い全国的テレビ局です。CCTV大富が中央テレビ局の番組を日本語で放送することは、日本の視聴者が真実の中国を知るための大きな橋渡しをするもので、日本国民が中国の最新の発展、変化を知り、中国に対する客観的認識を深めるのに役立つものと存じます。

来年、中日国交正常化40周年を迎えます。この40年間、中日関係は絶えず深まり、広がり、各分野の交流と協力がますます緊密になり、両国民に実益をもたらしています。国の交わりは民の親しさにあります。両国民の相互理解と友好は、両国関係が発展するための原動力と源泉になります。CCTV大富の日本語放送は、両国民の相互理解を増進し、心を通い合わせ、中日の子々孫々にわたる友好のために共に積極的に貢献できるよう心から期待しております。

在日本中華人民共和国全権特命大使

程永華

張 おっしゃる通りだと思います。テレビ放送を通して中国を知っていただくことはますます重要な意義を持つと思います。ただし、お互いを知り、相互理解を深めるためには言葉の壁が大きいと思います。

牛尾 ドッグイヤーという言葉がありますが、これからの5年間は20世紀後半の15年から20年分の変化が起きると思います。今後5年間で日中間の距離が近くなり、日中間の質も変化するでしょう。

程 そうした時代にテレビを通じてその変化を知ることが非常に重要だと考えています。今回の日本語放送開始は、日本の視聴者にとって非常に有益だと思いますし、日中の相互理解と友好につながる効果があると思います。

張 日本語放送開始は今まで頑張ってきた私共の集大成です。今まで頑張ってきたのは、牛尾会長、株主様をはじめ、多くの日中の方々のおかげです。感謝の気持ちで私を支えてきました。12年は日本と中国の国交正常化40周年にあたります。日中間は単なる2国間の関係ではなく、アジアひいては世界の平和にも大きな影響を与えます。

CCTV大富の日本語放送開始を契機に、日中両国民が相互理解を増進し、心を通い合わせ、末永き友好関係を築くためにこれからも努力していく所存です。

中国中央テレビ局CCTVの番組を日本において24時間リアルタイムで放送している「CCTV大富」が、2012年1月22日から日本語同時通訳・字幕放送を開始する。日中両国民の相互理解と友好をもたらす架け橋として、より一層重要な役

割が期待されている。そこで、ウシオ財団を通じて中国人留学生の奨学生募集に尽力されているウシオ電機会長・牛尾治朗氏と大富社長・張麗玲氏のお二方に、今回の日本語放送開始の意義などについて話し合っていた。

留学生支援と 日中友好のために

牛尾 私が理事長を務める公益財団法人ウシオ財団が特別枠を設け、2002年から中国人留学生の奨学生募集を始めました。そのきっかけとなったのが、テレビで偶然に大富社長の張さんが企画制作されたドキュメンタリー番組「私たちの留学生生活〜日本での日々〜」を見たことです。中国人留学生とその家族を追った番組でしたが、非常に感銘を受けたことを浅利慶太さんに話したところ、張さんと会う機会ができました。

張 私自身が留学生でしたし、それが期待されている。そこで、ウシオ財団を通じて中国人留学生の奨学生募集に尽力されているウシオ電機会長・牛尾治朗氏と大富社長・張麗玲氏のお二方に、今回の日本語放送開始の意義などについて話し合っていた。



大富社長
張 麗玲 氏



ウシオ電機会長
牛尾 治朗 氏

日本の商社で働いた経験もあります。留学生は日中友好の架け橋となる存在です。日本の人々や社会に触れる事は貴重な財産となりま

私(張)が日本に来て感じたことは、日本の人も中国の人も互いの国を理解していない、知らないことが多すぎるということです。

私(牛尾)が日本で暮らす留学生をテーマにしたドキュメンタリー制作を始めたのも、多くの人たちに留学生の実態を知って頂くことが目的でした。おかげさまで多くの方に視聴していただき、放送文化基金賞テレビドキュメンタリー賞を頂くまでの榮譽に浴しました。

その後、中国の最新文化・時事情報などを提供することも、日中友好関係構築の一翼を担うことを事業理念とし、1998年に「CCTV大富」の放送を開始しました。「CCTV大富」は、中国国家テレビ局「中国中央電視台CCTV」の番組を24時間リアルタイムで放送しています。

牛尾 10年の日本の貿易相手国第1位が中国であり、中国の貿易相手国の2位が日本であるように、経済面での日中関係は緊密で、中国は内需主導型の経済成長を進めながら日中の経済活動はますます活発化しています。

その結果、日中の人的交流もますます活発化しております。ビジネスで中国に在留する日本人も増加していますし、観光で訪れる人も増えています。日本と中国の

CCTV大富 日本語放送スタート



文化交流にはお互いの国を正しく理解することが重要です。

日中ビジネスを中心とする人的交流が深まっていくとともに、文化摩擦が目立ってきているのも事実です。欧米の人と違って外見が似ているため、かえって行動様式の違いを理解しにくいでしょう。

テレビ放送は現地に行かなくても、政治、経済、文化、人々の暮らしまで伝えることができますので、お互いの理解を深めるには非常に効果があると思います。

2カ国語放送が 相互理解深める

張 おっしゃる通りだと思います。テレビ放送を通して中国を知っていただくことはますます重要な意義を持つと思います。ただし、お互いを知り、相互理解を深めるためには言葉の壁が大きいと思います。

日中間のビジネス交流の活性化に伴い、中国語の分かる日本人や、中国文化に造詣の深い日本人

だけでなく、広く一般の日本人も中国のことを知っておかなければならない時代になっています。

こうしたニーズを踏まえ「CCTV大富」では現在、2カ国語放送の準備を行っており、12月23日から試験放送開始を予定しています。放送は12月22日スタートです。中国の経済・金融・政治・歴史・文化などを24時間ダイレクトに日本語でお届けします。生放送のニュース番組は、日本語同時通訳で放送し、テレビドラマや情報番組などは、すべて日本語字幕付きで放送します。

2カ国語放送が実現しますと日中両国の報道が見られますので、中国側の捉え方が理解できるようになります。「そういう見方もあったのだ」と気づくことで、誤った判断をしなくなる意義は大きいと思います。

牛尾 ドッグイヤーという言葉がありますが、これからの5年間は20世紀後半の15年から20年分の変化が起きると思います。今後5年間で日中間の距離が近くなり、日中間の質も変化するでしょう。

程 そうした時代にテレビを通じてその変化を知ることが非常に重要だと考えています。今回の日本語放送開始は、日本の視聴者にとって非常に有益だと思いますし、日中の相互理解と友好につながる効果があると思います。

張 日本語放送開始は今まで頑張ってきた私共の集大成です。今まで頑張ってきたのは、牛尾会長、株主様をはじめ、多くの日中の方々のおかげです。感謝の気持ちで私を支えてきました。12年は日本と中国の国交正常化40周年にあたります。日中間は単なる2国間の関係ではなく、アジアひいては世界の平和にも大きな影響を与えます。

CCTV大富の日本語放送開始を契機に、日中両国民が相互理解を増進し、心を通い合わせ、末永き友好関係を築くためにこれからも努力していく所存です。

広 告

企画・制作=日本経済新聞社
クロスメディア営業局